

教材のダウンロード期限について

毎週金曜日の朝 7:00 に「ニュース教材を発行しました」というメールを、全ての購読者の皆さまにお送りしていますが、一部、メールの届いていない先生がいらっしゃるようです。そのメールでは、以下のお願いをしています。

「できるだけ3週間以内に、教材をダウンロードして下さい。」

もし期間内にダウンロードできなかった場合は、お手数ですが、パスワードをお教えしますので、お問合せ下さい」

Instagram をお使いの皆さまには、毎週、金曜日のお知らせを出しているので、

メールが届かない方には、恐れ入りますが、フォローしていただけますよう、お願いします。

★椿由紀 Instagram https://www.instagram.com/yuki_tsubaki2020/

この教材の使い方について

- (1) 教材は Word ファイルでリリースします。不必要と思われる問題のカット（削除）、本文や設問のアレンジ、差し替え、加筆修正は自由です。先生方が授業で使いやすいように、お好きなように加工して下さい。
- (2) 「この問題は簡単すぎる」「設問は日本語でなく英語にしてほしい（逆に難しいから英語でなく日本語にしてほしい）」というご意見をいただきますが、全ての先生方の要望に応えられず申し訳ありません。私の判断で、英語が良いと思った設問は英語に、日本語が良いと思った設問は日本語にしています。先生方の判断で言語は自由に変えて下さい。
- (3) 毎回、スペリングや文法ミスがないか、細心の注意を払っていますが、間違いに気付いたら、後からホームページに訂正版を出しています。申し訳ありません。もしスペルミスや文法ミスに気付いたら、教えていただけましたら助かりますが、お時間がなければ修正してそのまま授業でお使い下さい。
- (4) 全ての教材に、「この英文を暗唱しよう!」というページがあります。毎回、重要な文法や使える表現を含むキーセンテンス3～5文を選んでいきます。これは「夢タン」などの参考書の著者として著名な木村達哉先生のセミナーで「英語は何度も音読して暗唱するのが上達の近道!」と教えていただいたことにより、8 月から始めました。文を暗唱してから本文を読んでも、全文を読んでから仕上げに英文暗唱しても、どちらでも良いと思います。生徒さんの習熟度と状況に合わせて、やってみて下さい。

教材執筆にあたって参考にした記事

新聞記事やウェブサイト

<https://www.theguardian.com/music/2022/jan/12/maria-ewing-obituary>

<https://www.tokyoweekender.com/japan-life/news-and-opinion/seiji-ozawa-passes-away/>

<https://mainichi.jp/english/articles/20240209/p2g/00m/0et/065000c>

<https://english.kyodonews.net/news/2024/02/570a67eb091f-bulletin-japanese-conductor-seiji-ozawa-dies-at-88.html>

https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/en/news/20240209_40/

<https://www.france24.com/en/live-news/20240209-magic-touch-japan-s-star-conductor-seiji-ozawa>

<https://mainichi.jp/english/articles/20240214/p2a/00m/0op/016000c>

<https://www.nytimes.com/2024/02/09/arts/music/seiji-ozawa-dead.html>

<https://www.csmonitor.com/The-Culture/Music/2024/0209/Conductor-Seiji-Ozawa-remembered-as-a-kind-and-thoughtful-humanitarian>

<https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/en/news/backstories/435/>

<https://www.asahi.com/ajw/articles/15159385>

動画

<https://www.youtube.com/watch?app=desktop&v=yXg9m2X0ZrY>

https://www.youtube.com/watch?v=kNo_ghEGIDE

文献

『ボクの音楽武者修行』小澤征爾 <https://amzn.asia/d/0CzW3mc>

0. 小学低学年用 英語ニュース

生徒さんの対象年齢は、特に決まっていますが、目安として、下記の生徒さんを対象に作っています。

- 1ページ・・・小学3年生～英語を習いたての6年生くらい（普通の小学生教材が、少し長くて難しそうな生徒さん）
- 2ページ・・・小学1～3年生、園児、アルファベットをすらすら読めないものの、ニュースに高い関心を持つ生徒さん

1ページ

Q1 (He is a Japanese) great conductor.

Q2 西洋で指揮者として成功した

Q3 29 ※ボストンの場所を地図で調べたら、図をしましょう。

Q4 Yes, I can. I can play the piano. / ※No, I can't.

※演奏するのが得意な楽器がある生徒さんは、発表しましょう。楽器の習い事などをしていない生徒さんも、小学校に通って普通に音楽の授業を受けていれば、リコーダーは演奏できると思います。“I can play the recorder.”と自信を持って答えましょう。

Q5 Yes, I have. / No, I haven't. ※合唱大会や音楽の授業で指揮者をしたことがある人は、経験を話して下さい。

Q6 Yes, I do. / No, I don't. ※指揮者をやってみたいかどうか、書きましょう。

2ページ

★Seiji Ozawa, conductor, orchestra, Boston のつづりをなぞって、発音を練習しましょう。

Q1 Yes, I can. I can play the piano. / ※No, I can't.

※演奏するのが得意な楽器がある生徒さんは、発表しましょう。楽器の習い事などをしていない生徒さんも、小学校に通って普通に音楽の授業を受けていれば、リコーダーは演奏できると思います。“I can play the recorder.”と自信を持って答えましょう。

Q2 Yes, I have. / No, I haven't. ※学校の合唱コンクールで指揮者をしたことがある人は、経験を話して下さい。（実際にその場で指揮をしてみてください。）

Q3 Yes, I do. / No, I don't. ※指揮者をやってみたいかどうか、書きましょう。

1. 小学高学年用 英語ニュース

※名前は「小学高学年用」とありますが、中学生、高校生、社会人の短い読み物教材としても、おすすめです。

（「中学生用教材」は、中2・中3を対象に作成しているため、少し文が長くて難しめです。

1ページ

Q1 He is a Japanese great conductor. Q2 the piano

Q3 (When he was) in high school.

Q4 西洋で指揮者として成功した

Q5 「アジア人の音楽家は、本当の意味では西洋の音楽を理解できない」という偏見

Q6 29 ※ボストンの場所を地図で調べたら、図をしましょう。

2ページ

Q7 教師(先生)

Q8 Yes, I can. I can play the piano. / ※No, I can't.

※演奏するのが得意な楽器がある生徒さんは、発表しましょう。楽器の習い事などをしていない生徒さんも、小学校に通って普通に音楽の授業を受けていれば、リコーダーは演奏できると思います。“I can play the recorder.”と自信を持って答えましょう。

Q9 Yes, I have. / No, I haven't. ※学校の合唱コンクールで指揮者をしたことがある人は、経験を話して下さい。

い。(実際にその場で指揮をしてみてください。)

Q6 Yes, I do. / No, I don't. ※オーケストラや合唱団で、指揮者をやってみたいかどうか、書きましょう。

指導の手引(紹介した動画について)

(1)ボストン交響楽団の CEO が “We lost a titan this week.”とスピーチします。titan は巨人という意味です。小澤さんはボストン交響楽団や世界中の音楽ファンにとって、非常に偉大な存在でした。

(2)のセサミストリートの動画は、小さい子供たちにもわかりやすい映像だと思います。小澤さんは、子供たちにリスペクトを払っているからこそ、「セサミストリート」のような子供番組でもお人形の歌劇団に向かって真剣に指揮をなさったのだと思います。

(3)の動画では、ボストンで若い音楽家たちに指揮を教える様子が映し出されています。アメリカの学生さんたちは、ソファでリラックスして、好きな姿勢で小澤さんの授業を受けていることがわかります。日本などのアジアの国々では、このような光景はあまりないと思います。(日本では、生徒はきちんとした姿勢で、先生に敬語を使って話さなければなりません) 米国では、先生をファーストネームで呼ぶのは、そこまで珍しいことではないようです。(私が通ったアメリカの大学でも、先生をファーストネームで呼んでいました) この映像の中のボストンの音楽家の卵たちも、小澤さんを“Seiji”と、まるで友達のようにファーストネームで呼びかけていたようです。小澤さんは気さくで、偉ぶらず、うんと年下の生徒さんにも自分の友達のようにフランクに接する、温かくてチャーミングなお人柄だったようです。